

所在地:	神奈川県横須賀市新明町58-4				
敷地面積:	46000㎡	延床面積:	43242㎡		
設立:	1982年11月	従業員数:	336名		
ISO14001取得:	1997年9月	ISO14001最新更新:	2009年7月		
主要製品:	ビデオ、テレビ、プロジェクター関連機器製造				
環境コミュニケーション:	08年度				
情報開示:	2件	工場見学:	126名	地域貢献活動:	16件
問合せ:	総務部			TEL:	046-836-1111

ごあいさつ

当サイトは横須賀市久里浜に位置し、近隣には美しい「くりはま花の国公園」や黒船が来航した「ペリー公園」等、郷土・自然環境に恵まれた地域で1982年に創業しました。主な事業概要はデジタルビデオカメラ、各種テレビ、プロジェクターや関連機器・部品の生産を中心に事業活動を行っております。

環境活動は1997年9月にISO14001の認証取得を受けて以来、環境保全活動は企業の社会的責任であることを深く認識し「文化に貢献社会に奉仕」を念頭に環境負荷低減の為継続的改善に努めています。

今世界的に環境意識が高まる中で欧州、アジア、国内他各国の環境法規制を順守し迅速かつ適切に多角的な取り組みを推進していきます。



環境責任者

長谷川 和宏

2008年度の環境重点テーマの取組み

目標	成果
省エネルギーへの取り組み 電力・灯油の削減(前年比1%以上削減)	省エネ型生産設備の導入及び、室内空調温度設定の改善等により、電力83.6万kWh(前年比-10%)、灯油15.3万ℓ(前年比-20%)を削減し、目標を達成しました。
廃棄物排出量の削減 (前年比10%削減)	廃棄物排出量削減に向けた、廃棄物の有価化を行うと共に、リユース、リデュース、リサイクルの3Rを推進して廃棄物の内66.7%を有価リサイクルする事により、廃棄物847t(前年比-84%)を大幅削減しました。
物流CO2排出量の削減 (積載効率向上による輸送回数削減で前年比1%削減)	トラックに積込む製品の「段積み数」及び、「底面積組合せ」による混載等の積載量増加の改善により、CO2排出量1.75t(CO2前年比 -1.4%)を削減しました。

製品・環境配慮ポイントの紹介

LT-47LH905

『フルハイビジョン』120Hz倍速技術を搭載液晶テレビ省エネを優先させた自動調整機能で最大約30%(当社比)の節電効果を発揮。家計にもうれしい省エネ機能『エコセンサー』搭載(LT-47LH905)



LT-47LH905

横須賀工場主な生産品

DLA-HD100

日本ビクターの地球環境に配慮した商品開発 Victor Ecologyの技術搭載



DLA-HD100

業界最高!*
ネイティブコントラスト
30,000:1の真実

GY-HM100/GZ-HD300

環境に配慮した設計で有害化学物質を排除しました。液晶に使われるバックライトの蛍光灯をLED型に変更。水銀フリーや塩化フリー不実現しました。



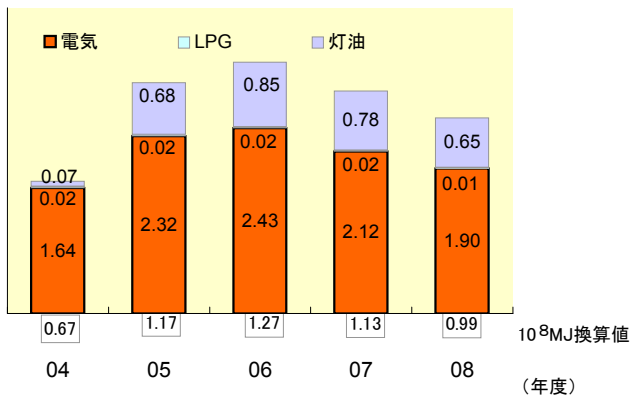
GY-HM100



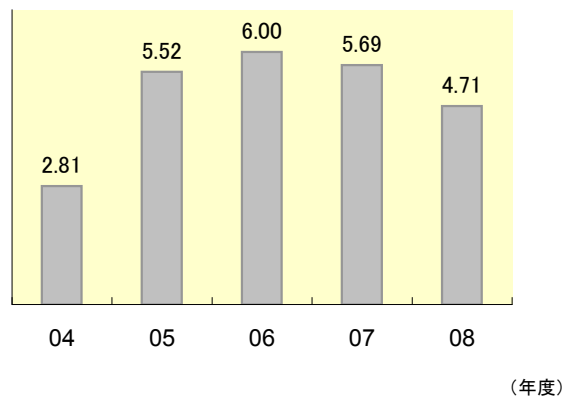
GZ-HD300-A GZ-HD300-R GZ-HD300-S

環境パフォーマンスデータ グラフ表示年 2008：2008年4月1日～2009年3月31日

エネルギー使用量 単位：千kl



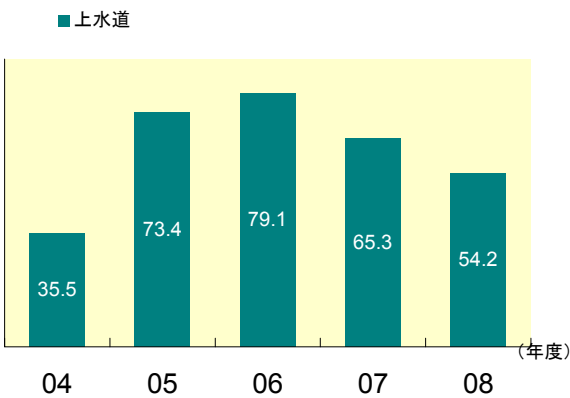
CO2排出量 単位：千t



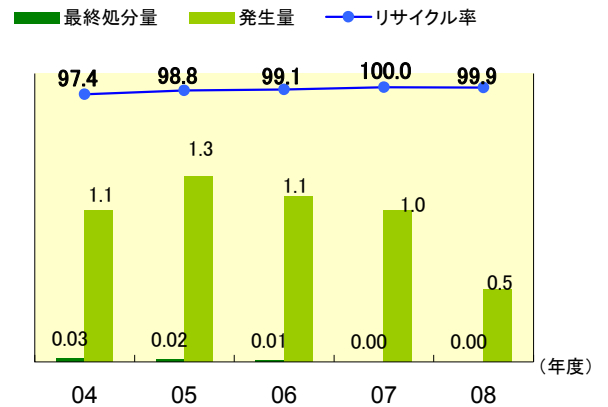
算出基準について

CO2/電力の換算係数は電気事業連合会の公表値を使用しています。2008年度は1990年度の係数を代用しています。その他は環境省の計算方法を使用しています。

水の使用量 単位：千m³



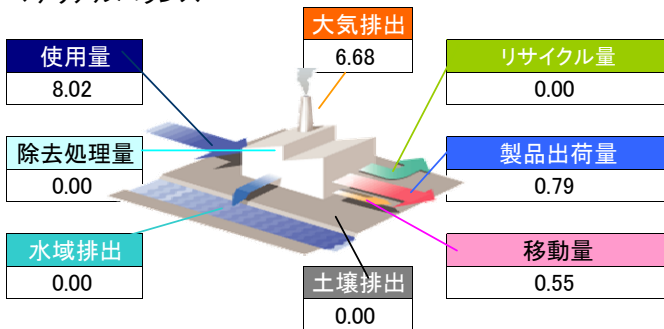
産業廃棄物・有価発生物 単位：千t、%



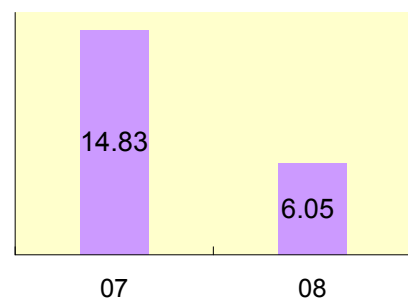
化学物質

マテリアルバランス

08年度



重点削減物質 排出・移動量



環境パフォーマンスデータの特記事項

重点削減物質＝PRTR法、VOC(大気汚染防止法)、GHG(地球温暖化対策法)の中で、環境影響の大きいとされる物質を削減対象として指定しています。(電機業界での使用実績の大きいものなど 約60物質群を指定しています。)

環境法令等の順法状況 08年度

<大気汚染物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
SOx	Nm3/h	NA					
NOx	ppm	B-1	150.00	120.00	76.00	76.00	1回/年
		B-2	150.00	120.00	105.00	105.00	1回/年
		B-3	80.00	64.00	43.00	43.00	2回/年
ばいじん	g/Nm3	B-1	0.15	0.02	0.01	0.01	1回/年
		B-2	0.15	0.02	0.01	0.01	1回/年
		B-3	0.15	0.02	0.01	0.01	2回/年

<水質汚濁物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
COD	mg/l	NA					
BOD	mg/l	NA					
窒素	mg/l	NA					
リン	mg/l	NA					

<騒音・振動>

	単位	計測場所	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
騒音	dB	昼 敷地境界	70.00	70.00	52.00	52.00	1回/年
		夜	60.00	60.00	50.00	50.00	1回/年
振動	dB	昼 敷地境界	70.00	70.00	13.00	13.00	1回/年
		夜	55.00	55.00	13.00	13.00	1回/年

法令規制値: 法または条例および協定の規制する値

N/A: 法令規制対象外の項目

法令規制値超過について

報告すべき事項はございません。

指導、指摘事項に対する改善状況

指導、指摘事項	改善対策
指導、指摘事項等特にありません。	

環境方針

日本ビクター株式会社国内グループ環境方針

<経営基本方針スローガン>

「文化に貢献 社会に奉仕」

<基本理念>

日本ビクター株式会社国内グループは経営基本方針スローガンのもと、すべての事業活動において「地球環境の保全」に取り組み、国際社会から信頼される「良き企業市民」として持続的発展が可能な社会の実現に向かって努力します。

<基本方針>

広く環境の改善は企業の社会的責任であることを深く認識し、「オーディオ・ビジュアル・マルチメディア、システム・ネットワーク、コンポーネント・デバイス、メディア、IT、インテリア家具及び関連商品等の、研究、開発、生産、販売、施工、物流、並びにメンテナンスサービス及び業務マネジメントサービス」を主とした本社・事業部・関連会社を含めた事業活動において、環境マネジメントシステムの継続的改善及び汚染予防活動を次により推進します。

1. 製品・サービスを含む事業活動により生ずる環境影響を常に考慮し、環境負荷の継続的な低減を図ります。
2. 国内グループの環境側面に適用する法規制及びその他の要求事項を順守し、必要に応じて自主基準を設定し管理の質の向上に努めます。
3. 環境改善活動を推進するための組織・体制を常に整備し、環境監査を実施することにより活動の継続的向上を図ります。
4. 国内グループのために働く人の環境に関する意識を高め、全員で環境の改善に取り組めます。
5. 地域社会との共存共栄を図るとともに、取引先及び海外事業所とも可能な限り協力して、環境改善を推進します。
6. 次の項目に重点的に取り組み、地球環境の保全に寄与します。
 - ①環境負荷低減型の研究開発と商品開発を進めます。
 - ②地球温暖化防止のため、省エネルギー活動を通してCO2排出量の削減に取り組めます。
 - ③廃棄物の資源化及び発生量の削減により、資源の有効利用を図ります。
 - ④化学物質を適正に管理し、使用量の削減に取り組めます。

～この環境方針は、社内外に環境パンフレットなどで公開しています。～

制定：1998年4月 1日
改訂：2009年4月 9日
作成者：日本ビクター株式会社
国内グループ環境保全統括者
代表取締役社長 吉田 秀俊

環境負荷削減の取り組み事例



環境保全活動
ISO14001認証の他、環境配慮型事業所として神奈川県より『環境管理事業所』の認定を受け、環境負荷低減を推進しています。



温暖化対策Co2削減への取り組み
廃棄物は、運搬業者と協力して、天然ガス車両での優先運搬を実施しCo2削減に努めています。

資源の有効活用
工場から毎日排出される廃棄物は約50種類に分別しリユース・リサイクル・有価物としてし環境負荷低減を図っています。

環境コミュニケーション事例



工場内のVHS記念館
”電子機器発展の歴史”や”映像世界の素晴らしさ”をテーマに学校の生徒さんや、一般の方々に見学を頂いています。



地域コミュニケーション
「文化に貢献社会に奉仕」の理念に基づいて横須賀工場では隣接した市道や歩道等の清掃活動を毎月行っています。毎年夏には工場内の敷地を解放して納涼祭を開催し地域住民の方々や行政機関の方との交流の場としてコミュニケーションを深めています。又ペリー祭等の地域行事にも、企業として積極的に参加して地域との共生を図っております。

緊急事態への準備と対応

考え方と訓練計画

近隣や地球環境に与える影響度を考え万一の場合を想定して、緊急事態の回避訓練を年間計画に基づき適時実施しています。又、施設や方法・手順書(マニュアル)についても定期見直しを実施しています。

敷地内化学薬品漏洩事故の想定例

施設見直しで化学薬品の般出・入時漏洩で近隣に流出する可能性を確認
写真1 ピット未設置

化学薬品車の般入搬出場所に漏洩を想定し流出防止ピット(側溝)を新設
写真2 コの字型ピット

化学薬品車からの漏洩を想定し、散水して流出防止訓練を実施
写真3 ピット内に散水

漏洩した化学薬品をポンプで回収する訓練
写真4 ピットから吸引

回収した化学薬品を施設内貯留槽に回収する訓練
写真5 貯留槽へ回収



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5